



まちづくり協議会だより 第2号

平成21年7月6日発行

まち歩き(第2回太秦天神川駅西部地域まちづくり協議会)を開催しました。

去る6月20日(土),午前9時より「まち歩き(第2回太秦天神川駅西部地域まちづくり協議会)」を開催しました。当日は23名の委員の方がA~Dの4つのグループに分かれて、地域の良いところや改善したいところなどを見て回りました。その後、まち歩きの結果をまとめた「まち歩きマップ」を作成し、代表の方がまちの問題点や課題について発表を行いました。

☆ 当日のプログラム

1. まち歩きのコース確認
2. まち歩き
3. まち歩きマップの作成
4. 班ごとのまとめ発表

☆ まち歩きエリアとまち歩きポイント

A グループ

【まち歩きのポイント】

- ①三条通の状況
- ②広隆寺前交差点
- ③道路が狭く密集した住宅地



B グループ

【まち歩きのポイント】

- ①太秦上桂線との高低差(坂)
- ②生活道路の状況
- ③嵐電の線路で行き止まりとなった道路

C グループ

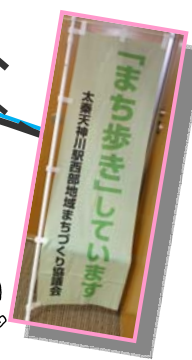
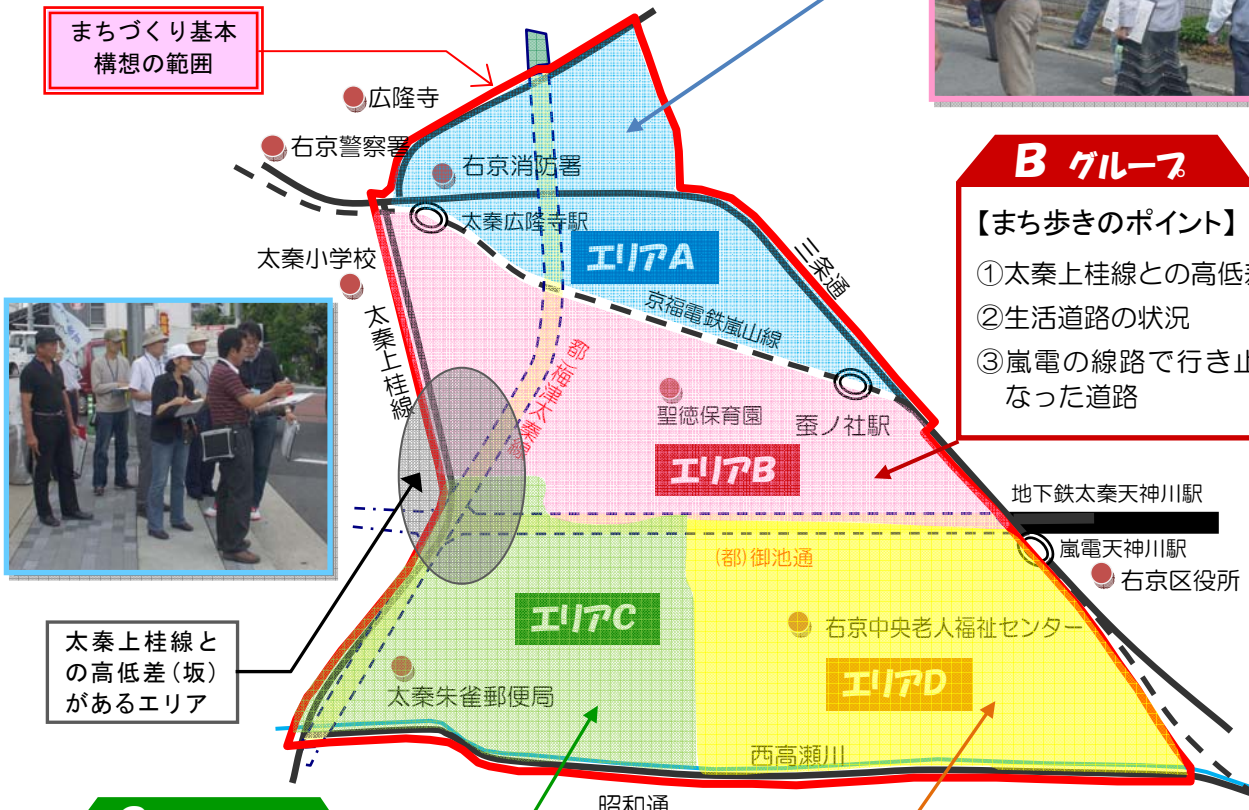
【まち歩きのポイント】

- ①太秦上桂線の状況
- ②生活道路の状況
- ③まとまった農地

D グループ

【まち歩きのポイント】

- ①昭和通の状況
- ②生活道路の状況



☆ まち歩きで感じた主な意見

Aグループ：嵐電より北側のエリア

①三条通の状況

→幅が狭いためバス等の大型車の離合が困難な状況になっており、観光バスが三条通を通るので観光シーズンは特に渋滞が起きる。

②広隆寺前交差点

→南北方向から来た車の右折が難しい。事故が少ないのが不思議なくらいである。

③道路が狭く密集した住宅地

→消防車も入られないような道が多く、防災上大きな問題がある。

→戦前の建物も多く、地震の時には多数の家が倒壊する危険性がある。

→道路は、清掃されていてきれいである。



Bグループ：嵐電～御池通(計画)間のエリア

①太秦上桂線との高低差(坂)

→太秦小学校付近は、地盤の高低差(坂)がある。(都)梅津太秦線の計画は、地盤の高低差を避けるために東側に少し移動させてはどうか？

②生活道路の状況

→防災上の問題もあることから、生活道路の整備は必要。

→(都)御池通の予定地の現道は、通学路であるが、交通量が多く、幅も狭いため危ない。

③嵐電の線路による行き止まり道路

→(都)御池通と三条通を結ぶ南北道路(嵐電蚕ノ社駅西側)に踏切を設置できないか。



Cグループ：御池通(計画)南側の西側のエリア

①太秦上桂線の状況

→現道は歩道が狭く危険であるが、(都)梅津太秦線が整備されると道幅が広がるので、子どもの横断の安全性を確保する必要がある。

②生活道路の状況

→(都)御池通の整備だけでなく、生活道路整備を要望していきたい。

→生活道路の側溝に蓋がないので危ない。

→春日神社前の南北道路は交通量が多く危険。

③まとまった農地

→地区内に公園が少ないので、農地や空地を公園にできないか。



Dグループ：御池通(計画)南側の東側のエリア

①昭和通の状況

→交通量が多く、南側に歩道があるが狭いため、歩行者や自転車は北側を通り危険。

→昭和通から太秦天神川駅方面への南北道路が少ない。

②生活道路の状況

→相互タクシー南側の道路と三条通の交差点付近は、幅が狭く交通量も多いので危ない。

→道路にはみ出で植木鉢が置いてあるところがあり、緊急車両の通行の妨げになる。

→段差により通り抜けできない道路は、防災面からも解消したほうがよい。



よくあるご質問とその回答

質問	京都市はこの地域で何を始めようとしているの？
答え	<p>昨春に太秦天神川駅周辺整備事業が完了しました。そこで、京都市では、引き続き太秦天神川駅の西部地域において、右京区の新たな拠点としてのまちづくりを検討したいと考えています。具体的には、都市計画道路の整備、密集市街地の改善、防災性の向上、公園の整備などが検討対象になるのではないかと考えています。</p> <p>平成21年度は、マスタープランとなる『太秦天神川駅西部地域まちづくり基本構想』を市民と行政のパートナーシップにより検討していきます。</p>

質問	太秦天神川駅西部地域まちづくり基本構想とは？
答え	<p>太秦天神川駅の西部地域で、今後のまちづくりを進めていくうえでの指針となるものであり、「今、どんな課題があるのか」、「目指すべきまちの姿とは」、「その実現のためにどのような方策をとればよいのか」などについて、地域の代表者からなる『まちづくり協議会』で平成21年度の1年間をかけて検討していきます。</p>

質問	都市計画道路の御池通と梅津太秦線だけを整備するのではないの？
答え	<p>太秦天神川駅の西部地域は、『都市計画道路が未整備』ということだけでなく、『身近な公園がない』、『道路の幅が狭い』、『災害時の避難が困難』など日常生活や防災面で様々な課題があると考えます。そのため、都市計画道路の整備だけでなく、地域が抱えるインフラ面での課題を改善できるような、総合的なまちづくりを検討する必要があります。その第一歩として、まずは「まち」の将来像となる『まちづくり基本構想』を検討します。</p>

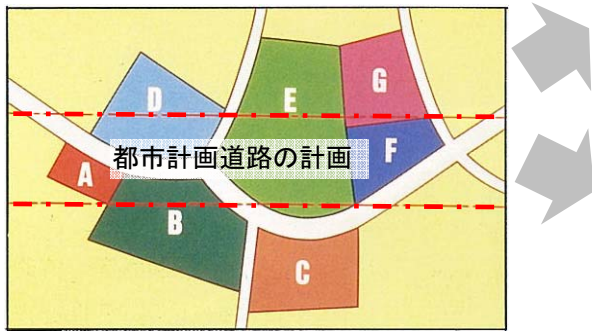
質問	今後のスケジュールは？
答え	<p>平成21年度は、太秦天神川駅西部地域（約35ヘクタール）全体の『まちづくり基本構想』や『優先的な整備が必要な区域』を検討します。</p> <p>平成22年度以降は、『優先的な整備が必要な区域』を対象として、整備手法や整備内容について、対象地域の住民の皆様と共に事業化に向けた具体的な検討を行う予定です。</p>

質問	都市計画道路の予定地内に居住しているが、立ち退きになるの？
答え	<p>従来からの道路整備は、線的な整備手法のため、道路用地にかかる方は、用地買収により地区外への移転が必要です。</p> <p>しかし、道路用地にかかる方への負担が大きく、道路周辺の土地利用への影響もあるため、土地の入れ替えを行う面的な整備手法も併せて検討する必要があるのではと考えます。</p> <p>面的な整備では、土地の入れ替えを行うことにより、道路用地にかかる方でも、現在の位置からの移転は必要ですが、地区内へ残留することも可能です。ただし、整備範囲が大きくなるため、用地買収に比べて費用が増加するなどの課題があります。</p> <p>具体的な整備手法については、住民の皆様の意向調査も含めて、平成22年度以降に検討していきます。</p>

<都市計画道路の整備手法>

都市計画道路は、用地買収方式による線的な整備が一般的ですが、『住み続けたい』という地権者のニーズに対応し、区画整理による面的な整備手法を検討することも可能です。

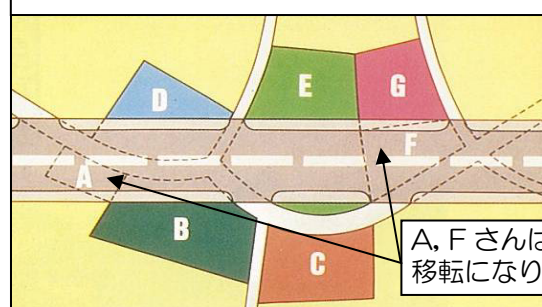
【整備前】



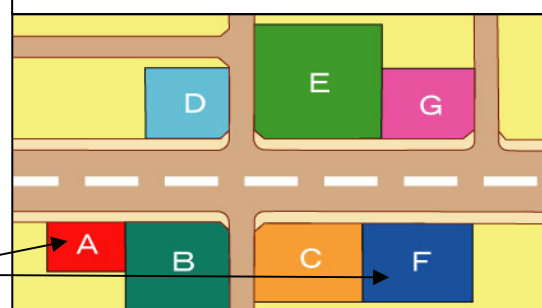
A, Fさんは地区内に住み続けることができます

【整備後】

街路事業（用地買収）による整備イメージ



区画整理（換地手法）による整備イメージ



次回（第3回）協議会日程は以下のように決まりました。

日時：7月14日（火）19：00～21：00

場所：右京区役所 5階 大会議室1（※協議会は傍聴できます）

内容：地域の問題や課題の整理について

わからないことは、
お気軽にお問合せ
ください。



お問い合わせ、協議会傍聴のお申し込み等は、下記までお願い致します。

京都市 建設局 都市整備部 市街地整備課（担当 榮（さかえ）、長谷川）

電話 075-213-3537 F A X 075-213-3586

e-mail sigaichiseibi@city.kyoto.jp